

中学校社会科における読解力向上の研究

Study of reading comprehension improvement in junior high school social studies

別所 健成

Katsumasa BESSHO

(要旨)

現在、OECDによりPISAが行われている。このPISAで求められている学力こそが現代の教育に求められているものと言える。日本人は自由記述の問題を苦手としていることが、PISAの結果から伺える。では、日本がPISAの求める学力を獲得するにはどのようにすればよいのか、現段階での成果を報告。

キーワード：PISA、社会科、読解力

はじめに

現在、OECDによりPISAが行われている。このPISAで求められている学力こそが現代の教育に求められているものだと言える。当然、日本においてもこの学力は重要なものだと言える。しかし、日本人は自由記述の問題を苦手としていることが、PISAの結果から伺える。では、日本がPISAの求める学力を獲得するにはどのようにすればよいのか、現段階での成果を報告する。

1. OECD生徒の学習到達度調査(PISA)について

1-1 OECD生徒の学習到達度調査(PISA)とは

OECD生徒の学習到達度調査(PISA)とはOECD(経済開発機構)による国際的な生徒の学習到達度調査である。概要は以下のとおりである¹。

- ・参加国が共同で国際的に開発し、実施している15歳児を対象とする学習到達度調査。
- ・読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について調査。
- ・2012年に65か国・地域(OECD加盟34か国、非加盟31か国・地域)、約51万人の生徒を対象に調査を実施。

過去には以下の通り調査が実施されている。

2000年調査：参加国 32か国(OECD加盟28か国、非加盟4か国)

2003年調査：参加国 41か国・地域(OECD加盟30か国、非加盟11か国・地域)

2006年調査：参加国 57か国・地域(OECD加盟30か国、非加盟27か国・地域)

2009年調査：参加国 65か国・地域(OECD加盟34か国、非加盟31か国・地域)

国際的な調査を実施・調整は、オーストラリア教育研究所(ACER)を中心とする国際コンソーシアムが行い、テスト問題及び質問紙調査の開発、調査の実施・調整、データの収集、結果の分析等を担当。日本では国際コンソーシアムのメンバーでもある国立教育政策研究所を中心に、文部科学省及び国立大学法人東京工業大学教育工学開発センターと連携・協力してPISA調査を実施。

1-2 調査内容

2012年調査では数学的リテラシーを中心分野として、読解力、科学的リテラシーの3分野を調査。また、国際オプションとして、コンピュータ使用型調査(デジタル数学的リテラシー、デジタル読解力、デジタル科学的リテラシー)も実施。

PISA調査は、義務教育終了段階の15歳児が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面でどれだけ活用できるかをみるものであり、特定の学校カリキュラムをどれだけ習得しているかみるものではない。思考プロセスの習得、概念の理解、及び各分野の様々な状況の中でそれらを生かす力を重視。

2. 中学校社会科において読解力をどのように向上するのか

2-1 読解力とは

読解力とは、文書を読んでその意味を理解し、解釈する力である²。しかし、PISAが求

めている読解力はこのような力ではない。

では、PISA が求めている読解力とはどんな能力なのだろうか。PISA 2012年の読解力の定義によると、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、熟考し、これに取り組む能力である。

つまり、ただ単に文章を読み、理解するだけでは読解力とは言えず、これに加え社会に参加する能力が必要だと言える。社会に参加する能力とはコミュニケーション能力だと考えられ、読んで理解して考えた自分の意見を述べるというような能力のことであろう。

2-2 PISA の読解力と学習指導要領を見て

学習指導要領で示された中学校社会の目標は、広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うとある。PISA の読解力と学習指導要領を見て、PISA の求める読解力は社会参加を目的にしていることから、社会科との関連が深い。また、社会科の授業では多様な形態の資料を扱う。つまり、社会科は教科の目的においても、それを達成するために活用する資料の多様性という点においても、読解力を育成するうえで、重要な役割を担っている。

2-3 社会科の読解力向上の研究に関する論文の考察

社会科の読解力の向上の研究に関する論文の中から次の2つを参考に考察した。①『「PISA 型『読解力』向上を目指した指導の工夫」に関する研究』②『社会科固有の「読解力」形成のための授業構成と実践分析（Ⅱ） ―フローマップ活用の視点から―』

①の論文のまとめ

知的好奇心をエネルギーに、読解スキルを駆使しながら、ステップの一つ一つを確実に踏んでいくことで、知識は「覚えるもの」ではなく「思考の成果」として、児童生徒の内なる「確かな学力」となる。熊本県では、この能力向上のために基礎・基本の徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた授業の構築を目指している。

- ①児童生徒に学びの主体としての意識を明確に持たせる工夫改善。
- ②情報の取り出しや解釈のための読解スキルの徹底指導。
- ③思考や表現の方法を学びながら確実に身に付けさせることで、児童生徒を自立した学習者へと育む。

このため、この研究では問題解決型学習を行われている。

次に、読解力向上を目指す問題解決型学習における授業改善の視点である。

①学びのデザイン

- ・指導目標及び学習課題の明確化
- ・学びのプロセスと自己の成長に対するメタ認知
- ・実生活、実社会との関連

②論理的思考力・表現力を高めるアプローチ

- ・教科特有のテキストの読解スキルの徹底
 - ・課題解決に必要なテキストの選択、評価
 - ・複数のテキストの比較、関連による解釈
 - ・テキストおよび既存の知識や体験を活用した意見の論述
 - ・対話活動による思考の整理、深化や新たな課題の発見
- そして、授業の特徴のまとめである。
- ・生活に密接につながる日本の産業についての単元で実践
 - ・学習シートや自己評価シートによる評価
 - ・単元の終わりに新聞を作成させ評価

②の論文のまとめ

社会科における PISA 型読解力は、社会そのものをテキストと捉え、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力であり、情報の「受信・受容」「思考・判断・創造」「発信・提示」という三つの要素の総体である。社会科においては、自分の考えを文章で書いたり、表現したり、情報や資料を分析・解釈し、既存の知識や経験と結びつけて、批判的に検討したり、自分なりの意見を論述したり、説明したりするという論理的な思考力に関わる能力として言語力が注目されている。これは、伝える力や調べる力などを含めた言語力である。社会科では、学習者が、テキストやグラフ、図表を一つの情報として意識し、事実を読み解くだけでなく、情報の持つ意図を読み解き、情報と社会との関係性や社会的背景に迫ることが必要である。単元「わたしたちのくらしとごみ」において、「ごみ問題」に焦点化して、その問題を解決するためのフローマップづくりを学習の軸に据え、読解の成長過程を文章や図（フローマップ）で表現させることによって、その形成を読み解き、分析することを試みる。客観的な知識の成長を評価するために、次の手順で研究に取り組んだ。

- ①授業実践の中で、子ども自身が読み解いた結果を、文章や図（フローマップ）で表現する。
- ②授業実践の過程で、子どもの読解の過程がたどれるように、小单元ごとに子ども自身の考えを表現させ、ふりかえりシート（授業記録）とフローマップをポートフォリオ³的に保存する。
- ③教師は、子どものふりかえりシートとフローマップ⁴を質と量の両面から分析し、読解の成長過程を把握し評価する。
- ④読解力形成のための授業構成を評価し、次の実践に活かせるようにする。
次に、授業の特徴をまとめる。
 - ・ごみ問題の単元
 - ・子どもが資料で読み取ったことを文章やフローマップで表現
 - ・振り返りシートをポートフォリオ的に保存
 - ・振り返りシートとフローマップを質と量の両面から、読解力の成長の過程を把握し、評価する。

この2つの論文から PISA の読解力を身につける社会科の授業は以下の様な特徴を持つのが良いと考えられる。

- ・実生活に関連する単元での実施
- ・様々な資料の活用
- ・学んだことを生徒自身が認知すること
- ・振り返りシートの活用、評価

このような特徴をふまえた授業づくりが必要だろう。

おわりに

これまでは、読解力がどんなものなのか、また、読解力を身につける授業はどのようなものなのかを考察した。これからの研究で、具体的な読解力向上のための方法、その評価方法をより研究していく。そして、中学校社会科での読解力向上の方法を明らかにしていきたいと思う。

註

- 1 国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA 2012）のポイント」 2013年12月
- 2 広辞苑第6版
- 3 自分の能力を周囲に伝えるための自己作品集
- 4 地図とフローチャートを組み合わせて、貿易量やネットワークのパケット流量、移住人口量など地域間の特定対象の移動量を表す地図

参考文献

- 国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査 ～2012年調査国際調査結果要約～」 2013年12月
国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA 2012）のポイント」 2013年12月
吉永鈴子『「PISA 型『読解力』向上を目指した指導の工夫」に関する研究』熊本大学教育センター紀要 vol.36 2007年
關浩和『社会科固有の「読解力」形成のための授業構成と実践分析（Ⅱ） —フローマップ活用の視点から—』学校教育学研究第23巻 2011年
有本秀文『必ず「PISA 型読解力」が育つ七つの授業改革』明治図書出版 2008年